

商業の動き

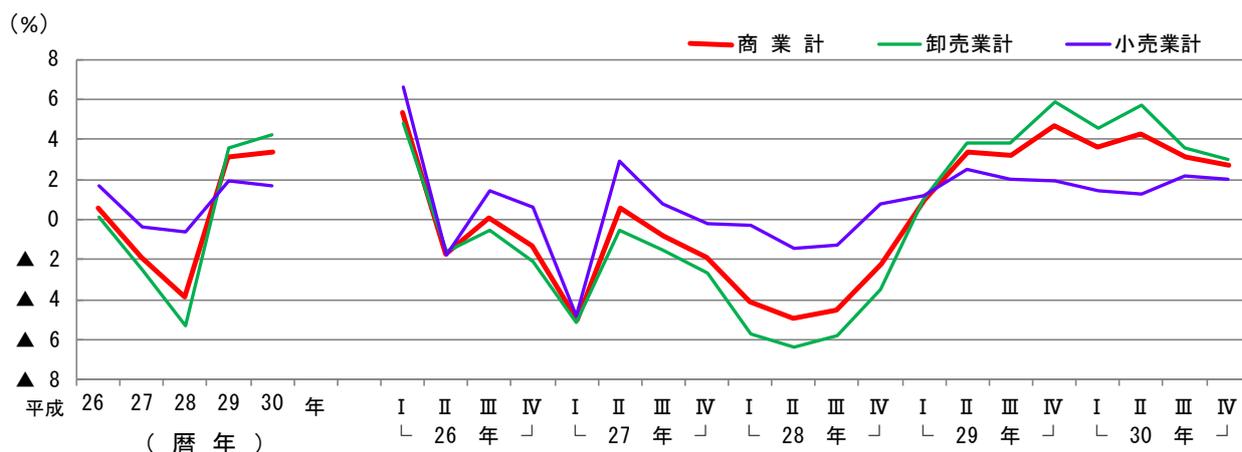
第 1 7 4 号
平成 31 年 3 月
経済産業省大臣官房
調査統計グループ



毎月のご報告ありがとうございます。

平成30年の商業販売額は、前年比3.4%と2年連続の増加となりました。内訳をみますと、卸売業は同4.2%、小売業は同1.7%と、ともに2年連続の増加となりました。(第1図)

第1図 商業販売額の推移(前年(同期)比)

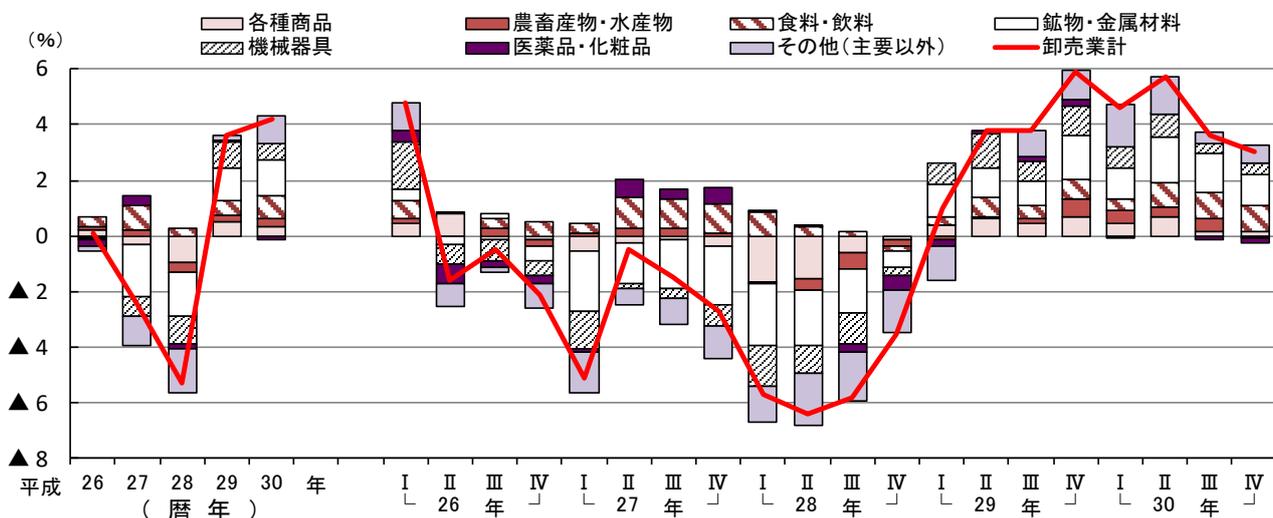


○卸売業販売額の動向○

平成30年の卸売業販売額をみますと、鉱物・金属材料卸売業は、原油などの価格上昇による輸入増及び非鉄金属や鉄鋼の輸出入増などにより増加、食料・飲料卸売業は、食料品の輸出入増や国内の外食産業向け増などにより増加、機械器具卸売業は、半導体等電子部品の輸出入増などにより電気機械器具が増加、原動機、半導体等製造装置の輸出増などにより産業機械器具が増加、自動車及び自動車部品のEU、アジア向け輸出入増などにより自動車が増加となりました。

また、各種商品卸売業(総合商社など)は、鋼材の国内外向け増や原油などの輸入増などにより増加となりました。(第2図)

第2図 主要卸売業の販売額前年(同期)比寄与度推移



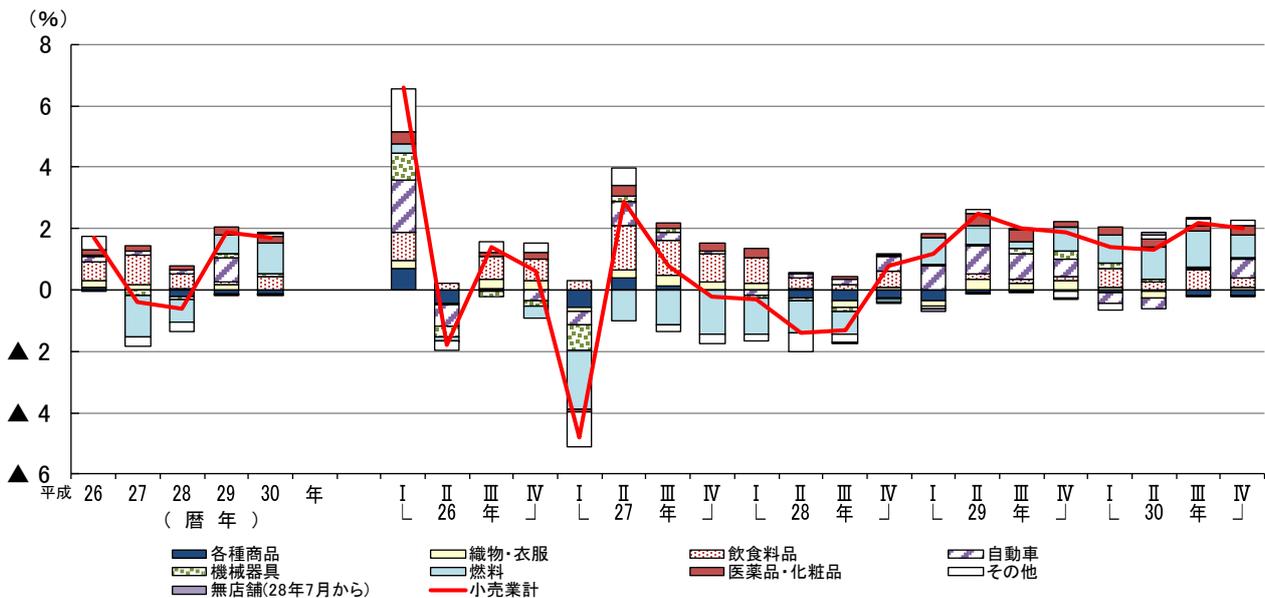
☆☆大規模卸売店の動向☆☆

平成30年の大規模卸売店の販売額は、鉄鋼が鋼材の輸出及び国内向け増などにより増加、石油・石炭が石油製品の国内向け及び輸入増になどより増加、化学製品が有機化合物の輸出入増などにより増加となり、全体として前年比3.5%と2年連続の増加となりました。

○小売業販売額の動向○

平成30年の小売業販売額をみますと、燃料小売業は、石油製品の価格上昇などにより増加、飲食料品小売業は、農産品の相場高に加え、総菜に動きがみられたことなどにより増加、医薬品・化粧品小売業は、化粧品が好調だったことなどにより増加、機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などが好調だったことなどにより増加となりました。（第3図）

第3図 小売業業種別の販売額前年(同期)比寄与度 推移



☆☆業種別の動向☆☆



- ① 各種商品小売業（百貨店、総合スーパーなど）は、豪雨や相次ぐ台風、暖冬など天候不順の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲1.3%と4年連続の減少となりました。
- ② 織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響から季節商材が不調だったことなどにより、前年比▲0.2%と9年ぶりの減少となりました。
- ③ 飲食料品小売業は、農産品の相場高に加え、総菜に動きがみられたほか、コンビニエンスストアの好調などにより、前年比1.4%と12年連続の増加となりました。
- ④ 自動車小売業は、小型車の不調などにより、前年比▲0.1%と5年ぶりの減少となりました。
- ⑤ 機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などが好調だったことなどにより、前年比1.9%と2年連続の増加となりました。
- ⑥ 燃料小売業は、石油製品の価格上昇などにより、前年比11.9%と2年連続の増加となりました。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアの堅調及び化粧品が好調だったことなどにより、前年比3.6%と7年連続の増加となりました。
- ⑧ その他小売業は、DIY用具・素材が堅調だったことなどにより、前年比0.5%の増加となりました。
- ⑨ 無店舗小売業は、食料品や化粧品に動きがみられたことなどにより、前年比0.4%の増加となりました。

◎百貨店・スーパーの動向◎

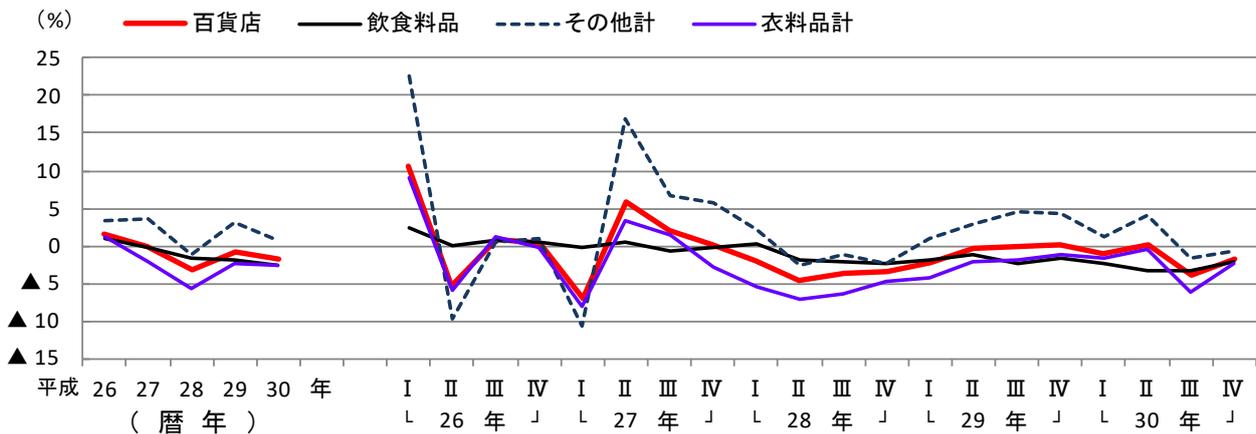
平成30年の百貨店・スーパー合計の販売額は、前年比▲0.0%の横ばいとなりました。なお、既存店ベースでは、同▲0.5%の減少となりました。



① 百貨店

百貨店は、化粧品や高額商品を中心に国内・インバウンド需要ともに好調だったものの、7月豪雨や台風などの天候不順や閉店などの影響から、衣料品などの動きが鈍かったことにより前年比▲1.7%と4年連続の減少となりました。なお、既存店ベースでも、同▲0.3%と2年ぶりの減少となりました。（第4図）

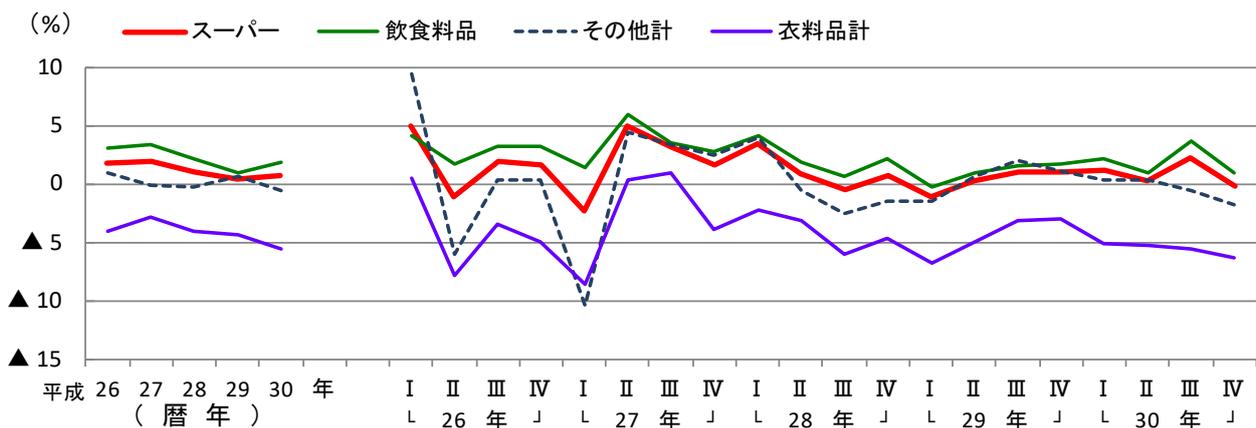
第4図 百貨店販売額の推移(前年(同期)比)



② スーパー

スーパーは、専門店、通販との競争を背景とした販売額減少や天候不順の影響などから衣料品の動きが鈍かったものの、主力の飲食料品が畜産品などを中心に堅調だったことや、猛暑で総菜や飲料などに動きがみられたことなどより、前年比0.8%と8年連続の増加となりました。なお、既存店ベースでみると、同▲0.6%と2年連続の減少となりました。（第5図）

第5図 スーパー販売額の推移(前年(同期)比)

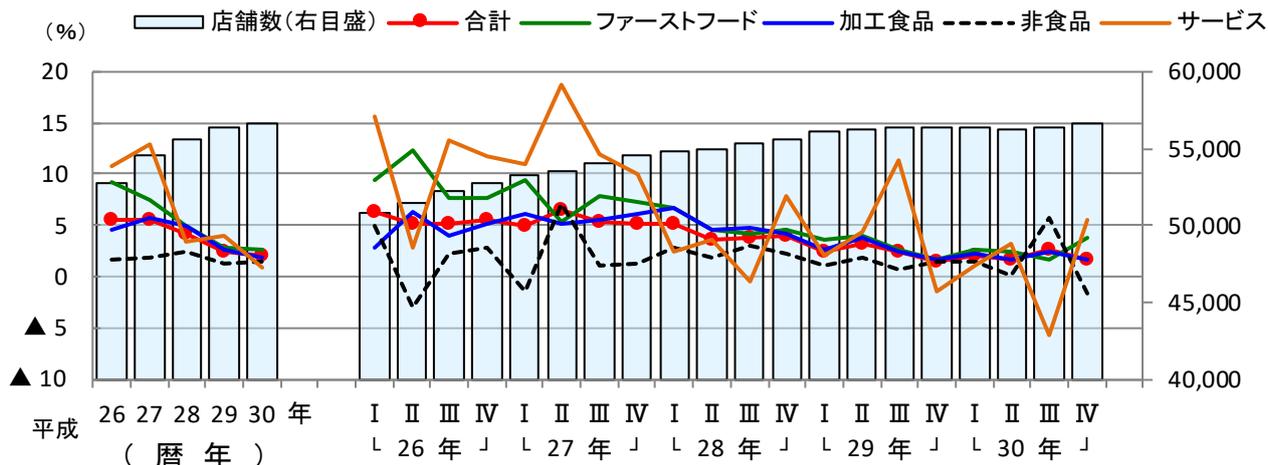


◎コンビニエンスストアの動向◎

平成30年のコンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、ファーストフード及び日配食品の好調などにより、前年比2.0%と20年連続の増加となりました。商品別にみると、ファーストフード及び日配食品は、総菜、調理麺、おにぎりなどが好調だったことにより、同2.6%と9年連続の増加となりました。加工食品は、冷凍食品、ソフトドリンク、アイスクリームなどが好調だったことなどにより、同1.9%と9年連続の増加となりました。非食品は、たばこ関連商品が好調だったことなどにより、同1.4%と20年連続の増加となりました。サービス売上高は、各種チケットなどの取扱い増やプリペイドカードの好調により、同0.9%と

1 2年連続の増加となりました。(第6図)

第6図 コンビニエンスストアの店舗数と販売額の推移(前年(同期)比)



◎家電大型専門店の動向◎

平成30年の家電大型専門店の販売額は、生活家電、通信家電、AV家電が堅調だったことなどにより、前年比2.0%と2年連続の増加となりました。(第7図)

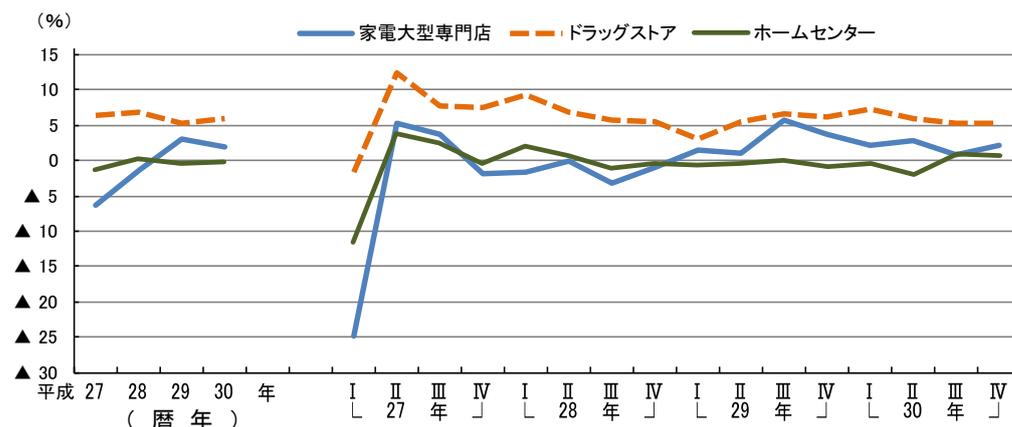
◎ドラッグストアの動向◎

平成30年のドラッグストアの販売額は、新店効果に加え、食品、ビューティケア、家庭用品・日用品・ペット用品などが好調だったことなどにより、前年比5.9%と4年連続の増加となりました。(第7図)

◎ホームセンターの動向◎

平成30年のホームセンターの販売額は、家庭用品・日用品、オフィス・カルチャー、園芸・エクステリアなどが低調だったことなどにより、前年比▲0.1%と2年連続の減少となりました。(第7図)

第7図 家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの販売額推移(前年(同期)比)



商業動態統計調査にご理解いただきましてありがとうございます。
 「商業の動き」については、12月分の確報数値を基に発行しております。この「商業の動き」は各種統計調査の結果とともに、下記のホームページでもご覧いただけます。
 なお、この資料の内容についてご質問等がございましたら、
 経済産業省 大臣官房調査統計グループ サービス動態統計室 商業動態統計班
 (電話03-3501-1511(代表)内線2898~2899)までご連絡ください。
 経済産業省統計ホームページ : <https://www.meti.go.jp/statistics/index.html>



リサイクル適性 (A)
 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。